

## 平成27年度第2回長浜市健康づくり推進協議会 会議録

日 時：平成28年3月3日（木）13：30～15：10  
場 所：湖北医療サポートセンター「メディサポ」  
2階B会議室

### 【出席者】

湖北医師会：手操会長  
湖北歯科医師会：川瀬副会長  
湖北薬剤師会：山内副会長  
市立長浜病院：徳田看護科長補佐  
長浜赤十字病院：大橋地域医療連携課長  
事務局：健康推進課 鵜飼課長・横田参事・藤副参事・前田副参事・伊吹主幹・多賀主幹・井口主幹  
長浜市連合自治会：大久保理事  
長浜市老人クラブ連合会：平塚副会長  
長浜市社会福祉協議会：川崎介護事業課副参事  
健康づくり0次クラブ：大橋副理事長  
長浜市健康推進員協議会：松井会長

### 【代理出席】

湖北健康福祉事務所：浅田主席参事

### 【欠席者】

長浜市立湖北病院：西川昇事務局長  
長浜市小中学校教育研究会養護教諭部会：  
宮村養護教諭  
長浜市民生委員児童委員協議会：早川副会長



### 【要点録】

#### 1 開会（挨拶：長浜市長）

#### 2 議事

「健康ながはま21」第3期（平成26～30年度）

平成27年度の実施状況（見込み）について（資料1）

- ①目標達成状況について（資料2）
- ②平成27年度健康推進課事業の成果と課題について（資料3～7）

#### 【事務局説明】

- ①「健康ながはま21」第3期2年目となる現在の目標達成状況について、資料2に基づきご報告しました。
- ②健康推進課事業の成果と課題について、資料1の中から選択して下記の事業をご報告しました。
  - ・健康づくりの啓発・推進～「むびょうたん+1」の推進のため、各団体・機関との連携強化～（資料3）
  - ・健康ながはまパートナーシップ事業補助金活用事例（資料4）
  - ・妊娠・出産包括支援事業（資料5・6）
  - ・休日急患診療所事業の充実と定着・山間へき地診療所の状況について（資料7）

会 長：資料5（P7）のスライド3で、ハイリスクの項目に「シングル」「若年」「高齢」等が挙がっていますが、たばこや病気については、「その他」の中に含まれるほど少ないということですか。

事務局：妊娠届の際に、たばこやアルコールの有無、既往歴や現病歴についてお尋ねしています。中には基礎疾患のある方もいらっしゃいますが、少ないです。精神的な不安定さから、精神科の治

療をされている方も何名かおられ、支援が必要な方と考えています。また、たばこを吸われている方については、妊娠届出時に啓発ちらしを基に指導をしています。

会 長：P 8のスライド5・6の産後の体調面や精神面などは、産後1か月くらいまでに尋ねた数字ですか。

事務局：4か月児健診と10か月児健診時に、705名のお母さんを対象に、産後のことを思い返して書いてくださいというアンケート調査の結果です。

会 長：資料7（P 11）の休日急患診療所のところで、小児科の受診者数を見ると、長浜赤十字病院に比べ、市立長浜病院・長浜市立湖北病院がだいぶ少なくなっています。もちろん長浜赤十字病院には三次救急も地域周産期母子医療センターも担っていただいています。休日急患診療所は日曜・祝日・年末年始が診療日なので、小児救急の日曜日の当番病院である長浜赤十字病院の受診者数が多くなっています。市立長浜病院・湖北病院が手を抜いておられるわけではなく、3病院ともご苦労いただいていることをご承知おきください。

会 長：資料2の「健康寿命の延伸」については、国を挙げて取り組んでいます。昨年、WHOが世界の健康寿命のランキングを発表し、日本がトップでした。介護保険の利用にも直結してきますし、医療経済的にも大きな問題であり、住民のみなさんの健康寿命をさらに伸ばそうとご苦労いただいているところです。がんの死亡率は、確実に少しずつですが下がっています。ただ、高齢者の人数が増えているので、がんで亡くなられる人数も多くなっています。特に女性の胃がん、男性の肺がん・COPD（慢性閉塞性肺疾患）の対策が求められており、喫煙対策はすぐに成果が出てくるものではありませんが、行政も継続して取り組んでいただきたいと思っています。

委 員：肺がんやCOPDもたばこが原因と言われていますが、市の歳入の中で7億8,000万円のたばこ税の収入があるのを見ますと、この収入を啓発などに使われたらいいのではないかと思います。喫煙者は肩身が狭い状況にあるにも関わらず、これだけの歳入があるということは、まだまだたばこを吸われる方がたくさんおられるということです。

事務局：今、オリンピックに向けて、国の方でも喫煙対策をしっかりとやっていこうという動きがあり、タイミングも良いと思います。市としても、来年度の企業訪問等に併せて啓発するなど、きちんと喫煙対策をしていきたいと思っています。

会 長：国全体でたばこ税の収入が2兆円程度ありますが、医療費がかさんだり、火事が増えたりして、たばこ税の収入の倍以上のマイナス面があると思います。オリンピックを開催する国は喫煙対策をきちんとしていけないといけませんので、これを機会に少しでも禁煙の方向へ向かうと非常にありがたいと思います。



委 員：資料5のスライド3で、ハイリスクの項目に「シングル」とあるのは、結婚されていない方ということですか。

事務局：はい。中にはパートナーと同居されている方もおられますし、同居されていない方もおられます。また妊娠した時には結婚していたが、離婚して出産するという方もおられるし、妊娠された時には結婚されてなくて、その後結婚される方など、いろいろな方がおられます。

委員：資料3の「1. 学校保健」で、小中学生の早い時期からがんについて学ぶという取り組みが紹介されましたが、市立長浜病院でも、この間、出前講座として、2、3の小中学校に医師と相談センターの看護師が行って来ました。DVDを使用したり、クイズを交えながら、子どもたちにわかりやすい内容で実施しました。たばこを吸ってしまった大人に話をするよりも、小学生やこれからの子どもたちに知識を得てもらい、子どもたちを通じて、学校から家庭に波及していく方が有効かと思います。「お父さん、たばこを吸ったらこんなことになるからやめた方がいいよ。」という言葉を期待しながら、このような出前講座等で小中学生に広めていくことが大事だと感じました。



事務局：市立長浜病院の出前講座を受講した子どもたちの感想で、「がんは怖い病気だと思っていたけど、早く見つけたら治るとわかって安心した」「こんな病気に家族がなったら怖いから、がん検診を受けてもらうようにお父さんお母さんに頼んだ」「お母さんに聞いたらがん検診を受けていて安心した」「お父さんにはたばこをやめてもらう」など、素直に感想を書いてくれました。

会長：小学5年生の保健体育の教科書にも、薬物とたばこの問題が載っています。子どもたちから、家庭にもいい影響を与えていくと思います。出前講座等で啓発していただくとありがたいです。また学校医としても、教育委員会の方で病気やたばこの問題の話をしないといけないと思っていますが、学校医の先生方も忙しくされていますので、医師会としてもできることからしていければと思っています。

委員：委員というよりは一通勤者としての意見ですが、駅に降りると喫煙所があり、その副流煙が気になっています。また町の喫茶店でも、喫煙席と禁煙席が一体になっていて、副流煙が漂ってきます。たばこを吸う方の理屈もあると思いますが、もう少し分煙を徹底してほしいです。

会長：スーパーにも、出入り口のすぐ横に灰皿が置いてあります。飲食店でも、分煙が徹底されていないところもあります。飲食店の喫煙対策については、保健所の仕事にも関係してくると思いますので、その立場からのご指導いただけるとありがたいです。

委員：長浜赤十字病院の自転車置き場等でも、夕食後には5、6人が吸っておられます。吸わない人にとっては大変嫌なおいです。

事務局：今年、国の指針が出て、分煙の基本的な考え方等、整理されており、引き続き啓発していかないといけないと思っています。ただ今までは、啓発していてもあまり説得力がなくて、吸っている人からすればわかってるということで終わってしまうので、もっといい啓発方法がないかと探していました。市では京都大学と0次健診の事業をしており、その中の一つに、尿検査でニコチンが体内に入るとコチニンに変化し、その濃度を調べる研究がありました。たばこを吸っていない人でもすごく濃度が高い人があり、その人の環境を見てみると、家族が吸っている環境下にあった人に出ているので、長浜市のデータとして使えるものだと思っています。吸わない人の立場になって、吸わない人の健康も害していることをアピールできるよう、来年度に向けて説得力のある資料づくりをしていきたいと準備をしているところです。

委員：市立長浜病院には禁煙外来があり、やめる意志を持った人に対しては支援がありますが、やめようと思うまでが大変なので、動機付けができるような何かがあるといいですね。健康づくり0次クラブで健康フェスティバルを毎年5月に開催されていますが、その時にも健康づくりの

啓発について何か用意をされていますか。

委員：5月22日に健康づくり0次クラブ主催の健康フェスティバルを開催する予定で、今度が7回目になります。約12,000人の市民が来られ、健康に関する啓発をしていますが、来られる方は健康に対して意識が高い方で、意識の低い方はあまり来られないので、もったいないと思います。また0次健診に関わっていますが、60代以降は約90%が高血圧の方で、約70%が降圧剤や高脂血症の薬を服用しておられます。60代からは、身体が太い細いに関係なく、高血圧症になるんだなと感じました。高血圧については、塩分ばかりでなく、身体の機能的なことも関係するのですか。

会長：塩分の接種が少なくても、高血圧にはなります。塩分を減らしても血圧が下がるとは限りません。塩分だけというわけではなく、他のたばこや肥満の問題等があります。

委員：健康推進員として減塩活動に取り組んでいますが、意識が低い人がまだまだ多いです。私たち健康推進員だけが満足してはいけなくて、もっと広範囲な人に知ってもらわないといけないと改めて感じました。健診なども本当に行ってほしい人は受診されない。口で言っているにもかかわらず聞いてもらえません。今流れているTVのコマーシャルで、子どもさんがお父さんに「たばこをやめてください。」と学校の教室でお願いするものがあり、これはいいなと感じました。どうしたら意識が低い人が、健診を受診したり、たばこをやめたりという意識を持ってもらえるのかと常々思っています。

会長：医療に携わっている者から見ても全く同感で、きちんと治療を受けていただきたい方は受診されない。ただ、塩分の摂取については、資料1のP20に「H22の栄養マップ調査」の数値として、男性：11.3g、女性：10.3gと挙がっており、以前と比べたら、ものすごく減っています。これは保健師さんや健康推進員さんの地道な取り組みのおかげであり、今後も継続していただければと思います。

委員：資料7の「休日急患診療所の充実」に関して、長浜市・米原市にはとても努力をしていただいて、実質、三次の救急救命センターの受診がだんだん少なくなってきており、ウォークインの患者さんが減っていることを実感しています。ただ、それでもウォークインの方はおられるので、住民に目で見てわかるポスターがあればいいと思います。また医師会の健康教室で、どういう時に救急外来やかかりつけ医に行けばいいのかという「病院のかかり方」について講座をさせていただいたので、そういう住民への啓蒙をしていただければいいと思います。長浜赤十字病院では、「かかりつけ医を持ちましょう」等のポスターを何枚も貼って数年経ちましたが、最初は拒否されていた人たちが、最近は受け入れてもらえるようになりました。やはりキャンペーンや目で見えるかたちで広報をするというのは、何年か経つと効果があるのかなと思います。私たちも休日急患診療所に期待していますし、医師の過重労働の負担軽減という意味合いでも、どんどん充実させていってほしいと思いますので、広報についてもよろしく願います。

事務局：時間がかかってしまうのかもしれませんが、特に内科の受診割合を増やすために、どのように啓発していけばいいか考えていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

会長：先ほど、病院の周囲の喫煙の話が出ましたが、現在、診療所や病院は敷地内禁煙をしています。以前は病院等の一画に喫煙所が設けられ、パジャマ姿の患者さんや白衣の医師が喫煙するということがありました。さすがに少なくなりました。全国的に公園などちょっとしたスペースの灰皿や吸い殻等が問題になっていますが、継続して取り組んでいくことで少しずつ改善されていくと思います。

#### 4 閉会（挨拶：健康推進課長）